

バードリサーチ ニュース

2008年10月号 Vol.5 No.10



Garrulus glandarius
Photo by Uchida Hiroshi

参加型調査

コサギは郊外の大きな河川で減っている？ アンケート調査 中間報告

平野 敏明

コサギは、日本で最も普通に見られるシラサギと言われて
います。しかし、その一方で、関東地方や北日本では、近
年コサギが減少したという声を聞きます。そこで、私は、昨
年の冬に20年前に調査した栃木県内の河川で再びコサギ
の生息状況を調査してみました(バードリサーチニュース
2008年4月号)。すると、農村地帯を流れる多くの河川から
コサギの姿が消えている一方で、ビル街を流れる中規模な
河川では、まだその姿をみることができました。さらに、住
宅地の小さな河川にもコサギが生息していたのです。果た
して、コサギは本当に減少しているのでしょうか。それとも、
コサギの減少は、特定のごく狭い地域で起きているだけ
で、全体的にはさほど深刻な状況になっていないのでしょ
うか。

この問題を明らかにするために、バードリサーチでは、
2008年4月からアンケートによるコサギの生息状況調査を
始めました。調査自体はまだ継続中ですが、ここでは、9月
20日までに回答があった47件の情報をもとに、今までに分
かった結果を簡単に紹介したいと思います。

1. 地域ごとのコサギの生息状況の変化

まず、今回の調査で、回答のあったほとんどの地域に
は、コサギがまだ生息していることがわかりました。しかし、
その一方で、やはりコサギの生息数が減少したという意見
は全体の31%を占めました。関東地方以外の情報
数は極めて少なくその実
状を反映していない可能
性もありますが、関東地
方から近畿地方や四国、
九州など広い範囲から減
少しているとの情報をい
ただきました(図1)。また、変化がないという意見も全体の
34%ありました。同じ県内でも減少したという回答と変化が
ないという回答の両方が報告されています。

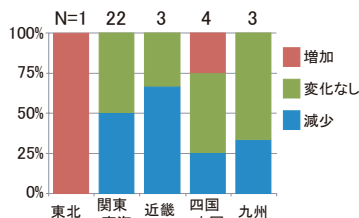


図1. 地域別の生息状況の変化。

2. 市街地と郊外の比較

そこで、減少した場所と変化がない場所で環境的に何か
違いがあるかどうかを、まず、調査地の周囲の環境区分の

違いから検討してみました。アン
ケートでは複数の回答がありまし
たが、環境区分を便宜的に大きく市街
地とそれ以外(郊外)にわけて、集計
してみました(図2)。すると、市街地
よりも郊外で減少した調査地の割合
が多いことがわかりました。

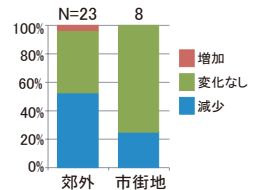


図2. 周辺の環境区分と生息状況の変化。

3. 河川規模でみてみると

次に、観察地の多かった河川での回答をもとに、河川の
規模とコサギの生息状況の変化の有無をまとめてみました
(図3)。その結果、10m以
下の小規模な河川では変
化なしが減少より多かつた
のに対し、51~100mの河
川では両者が逆転し、
101m以上の大規模な河
川になるとすべての調査
地で減少していました。

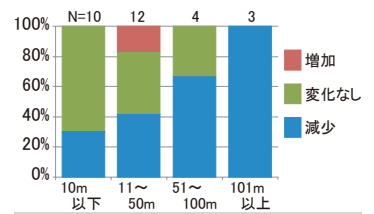


図3. 河川の規模と生息状況の変化。

4. 減少した時期とアンケートのお願い

これらから、コサギの減少は、どうも農村や樹林地などの
郊外のしかも大きな河川でより顕著に起きているようです。
この結果は、私が今年の冬に栃木県の河川で行なった調
査結果とも一致していました。では、コサギの減少はいつ
ごろから起きているのでしょうか。1990年代以前という意見
もありましたが、最も多かったのは、2000年代前半で、次に
多いのが2000年代後半でした。コサギの減少は、やはり近年
になって生じてきたことが示唆されました。今回、生息状
況に変化がないと回答があった地域でも、今後新たに減
少が起きるかもしれません。

しかし、残念なことに、今までに情報が寄せられた地域
は、関東地方を除くとあまり多くありません。また、市街地や
大規模河川の情報も少なく、コサギの現況を明らかにする
ためにはさらに多くの地域から情報が必要です。コサギの
アンケート調査は、下記のホームページで継続して行なっ
ています(画面下にアンケートの入力画面へのボタンがあ
ります)。一人でも多くの方の情報をお待ちしています。ご
協力をお願いいたします。末尾ながら、回答をいただいた
39名の方々にお礼申し上げます。

■コサギの生息状況調査のホームページ
http://www.bird-research.jp/1_katsudo/kosagi/